

# ミンダナオの風

発行：ミンダナオ子図書館 編集：松居友

59号・2017年4月



ミンダナオ子ども図書館の若者たち十数名が、日本に招待されて、日本の方々と、とりわけ子どもや若者たちと交流することになった。

公演で披露するのは、ムスリムと先住民とクリスチャンの伝統的な踊りと歌で、

MCLの若者たちは、大喜び！

今回、来日する子の中には、マノボ族で、曾祖父母が、日本人だったという子もいる。

「私は、小さな頃から日本に憧れていました。カリナン出身の母の曾祖父母のどちらかが日本人だと聞いていたからです。日本に行ってみたいという夢が叶ってうれしいです。」

戦争や家庭崩壊で、想像を絶する苦勞を、重ねてきたにもかかわらず

明るく笑顔で、生きる力に満ちあふれているミンダナオ子ども図書館の子どもたち。

日本から訪れた若者たちは、彼らに出会って感動し

別れのときは、大泣きに泣く子も多い。経済的には豊で、物やお金があふれていても

心は貧困に見える、日本の子供や若者たち彼らが、現地に来て、喜び希望と

生きる力を得て帰っていくのを見るにつけてこれから出来ることの一つとして

兄弟姉妹、家族としての友情と愛の交流を、公演会で企画して、始めることに決心した。

毎年五月の連休から1ヶ月、うかがいますので宗教に関係なく、幼稚園や学校や施設や団体等、

お声をかけて下されば、喜んでうかがいます。

**MCLの若者たちが、日本に公演にうかがって  
マノボ族、イスラム教徒、クリスチャンの踊りと歌を披露します**



4月の終わりから約1か月間、MCLの奨学生9人とスタッフ2人が日本を訪れ、それぞれの民族の踊りや歌を披露します。日本に行く、9人の奨学生の自己紹介です。

宮木 梓（あずさ）

Janisa W. Pandian（女性）23歳  
マギンダナオ族



ジャニサ パンディアン

日本の皆さん、こんにちは。  
私はジャニサで、南ミンダナオ大学キダパワン校の4回生です。イスラム教を信仰しています。ピキットのシリックが故郷で、一緒に日本に行くノルハイヤの姉です。私は7人兄弟の2番目で、兄がいます。

私は、8年前の高校1年生の時に、MCLの奨学生になり、それからずっとMCLに住んでいます。MCLで暮らせたのは、とてもいい経験でした。みんな、私を本当の家族のように接してくれました。私は、たかさんの人から愛されていると感じました。

様々な民族の友達と過ごすことで、違う文化の人々を尊敬することを学びました。この6月で大学を卒業できるので、とてもうれしいです。

大学では、コンピューターと電気工学を学びました。卒業後は、MCLで働きたいです。私たちと同じように、困難な状況に置かれた子どもたちを少しでも助けたいからです。

もし、MCLで採用が無ければ、工場で働くつもりです。早く金銭的に家族を助けたいので、卒業後すぐに職に就きたいです。

日本では、特に子どもたちと仲良くなりたいです。



講演会、報告会、家庭集會に、松居友が謝礼に関係なくうかがいます。

サイト『ミンダナオ子ども図書館だより』から年間のスケジュールをクリックすれば、空き日が確認できます。

講演や家庭集會の設定も、輪を広げていくための、大きな支援のひとつです。

メールや電話でもお申し込みください。メール：[mcltomo@yahoo.co.jp](mailto:mcltomo@yahoo.co.jp)

電話番号：080-4423-2998（日本および現地転送・松居友）

Claudine Grace M. Malasan (女性)  
18歳 ビサヤ族



クラウディン グレイス

私は、クラウドイン・グレイス。キダパワン大学2回生で、IT(情報技術)コンピュター)を専攻しています。カトリックを信仰していて、毎週キダパワンのカテドラルに礼拝に行きます。

私はキダパワンで生まれましたが、両親が幼い頃に離婚したので、父の家と母の家を行ったり来たりして育ちました。今は、キダパワンの父の家に住んで、大学に行っています。

母は2年前からMCLに住み込みで働いていて、キッチン担当です。私も大学から、MCLの奨学生になりました。大学を卒業したら、キダパワンかダバオでOLになりたいです。

MCLの奨学生になって、様々な民族の子と出会い、友達になって、違う文化や宗教についての理解が深まりました。自分のすぐ近くに、色々な人がいることに気付くことができました。

それぞれの民族の違いを、受け入れることを学びました。

今回、日本に行くチャンスを与えられ、日本の文化に触れることができるので、うれしいです。たくさんの人に出会いたいと思っています。

公演で観てほしいのは、ビサヤの「ティニクリン」という、竹を使ったダンスです。ステップに失敗して、足を竹に挟まれたら痛いけれど、挟まれないように上手くステップを踏み込んで観て下さったらいいな、と思います。



Cyrl M. Umpan (男性) 19歳  
オボ・マノボ族 / セファノ族



サイリル ウンパン

僕の名前はサイリルで、南ミンダオ大学キダパワン校3回生です。電気工学を専攻しています。

僕の学科は3年制なので、日本から戻ってすぐの6月に卒業予定です。プロテスタントを信仰しています。

僕の出身は、MCLから車で30分ほどのサヤバンという集落です。父は、バナナやゴムの樹、アバカ麻を育てて生計を立てています。私たちは一日3食お米が食べられますが、学校に行くためのお金は十分ありません。

私がMCLの奨学生になったのは、高校生の頃に、MCLのマノボの奨学生たちに踊りや歌を教えていたからです。僕は、小学校に上がる前から叔父に、マノボ族の伝統的な楽器の演奏や歌、踊りを教えられて育ちました。

日本でも、マノボ族の伝統的な踊りを紹介できることに、とてもワクワク

しています。細かいステップを踏みながら踊ります。昨年からは、毎週末練習してきたので、今ではムスリムのダンスも覚ええました。

私はキリスト教徒で、オボ・マノボとしての誇りもありますが、他の民族も尊重しています。民族や文化が違っても、私たちは一つの家族で、兄弟です。日本で皆さんと会えることを、とても楽しみにしています。

Jack H. Cabudlay (男性) 21歳  
マンダヤ族 / ビサヤ族



ジェック カブドウライ

こんにちは！僕の名前はジェックで、マノンゴル高校5年生です。選択クラスでは、溶接の練習をしています。信仰はカトリックです。

僕の故郷は、ダバオ・オリエンタルのマハヤグで、MCLから車で7時間程かかります。僕は12人兄弟の上から2番目で、僕だけが学校を止めずに高校に行っています。父は、



トウモロコシ畑の労働者で、日給は150ペソくらい(約300円強)ですが、毎日仕事があるわけではありません。母は、弟妹がまだ小さいので家にはいます。子どもが多いと、水汲み、洗濯、炊事、掃除だけでも大仕事です。家族が多いので、父の収入では一日3食たべられません。朝と夜だけ食べます。僕が奨学生になったのは、小学4年生の時で14歳でした。それからずっと、MCLに住んでいます。高校を卒業したらダバオの大学に行って、電気工学を学びたいです。

私はジョバリンという名前で、ニックネームは「アンジョイ」です。マノングル高校4年生で、プロテスタントを信仰しています。出身は、アンテナスのカムタン村カマッド集落です。私は7人兄弟の上から6番目で、父はトウモロコシ畑の労働者です。私が



ジョバリン ランダス

日本に行つて、僕を支援して下さいたい人に見えるのがとても楽しみです。公演では、マノボの踊りを観てほしいです。ステップが難しいですが、毎週毎週練習して、上手に踊れるようになりました。僕の父はマンダヤ族、母はビサヤ族だけれど、マノボ族の踊りの方が賑やかで好きです。観に来て下さった、たくさんの方と友達になりたいです。

小さい頃は土地があったけれど、父が売ってしまったので、今は小作として働いています。母は病気がちでいつも咳をしていて、外で働けません。私が奨学生になったのは、小学6年生の時です。最初の2年間はMCLに住んでいたけれど、家が恋しくて村に戻りました。でも、家から学校がとても遠く、実家にいるときは朝3時か4時に起きて水浴びをし、朝食を作つて食べて、掃除をして、5時に家を出ていました。徒歩で通学して、学校に着くのは6時半頃で、7時15分には国旗掲揚式が始まります。

私の家は貧しく、お米が買えないことも多いので、そうするとお弁当を持って行けません。その時は、午後の授業を欠席して家に帰っていました。本当は実家にて母を手伝いたいのですが、2年間実家から通学してみると厳しくて、昨年MCLに戻りました。両親が大学に行つてもいいと行つたら、進学して社会福祉士になるための勉強がしたいです。日本に行つたら、たくさんの方と友達になりたいです。公演を観て下さる人たちが、私たちの伝統文化を知つて下されば、うれしいです。私が特に好きなのは、ムスリムの「フ

アンダンス」です。扇子がお花が咲くように動いて、とっても素敵なんです。マノボの踊りはステップが難しく、時々訳が分からなくなりますが、皆さんが、私たちの踊りや歌を楽しんで下されば、うれしいです。

私はマリサで、マノングル高5年生です。MCLの敷地内にある女子大生寮に、昨年から住んでいます。アラカンの山あいの村、キアタオが私の故郷で、プロテスタントを信仰しています。父はマノボ族で、母はビサヤ族です。父は、カカオ、コーヒー、トウモロコシを育てて売って、収入を得ています。一日3食十分に食べられる稼ぎがあります。



マリサ リナオ

Mariza E. Linao (女性) 17歳  
マノボ族/ビサヤ族

**自由寄付は、一番根幹になる寄付です。**  
**貧困集落に住んでいる子供たちの薬から手術に至るまでの医療費。**  
**保護を必要として、MCL本部や下宿小屋に住み込んで学校に行かせている200名ほどの奨学生の生活費。ガソリン代を含む活動全般の諸経費等々。**  
**機関誌を楽しみにしているの方の場合は、わずかな寄付でもお送りします。**  
**他の方々に紹介していただければ幸いです。**

母は、ダバオでマッサージ師をしています。両親は8年前に離婚しました。父が突然、精神的におかしくなり、誰かに殺されるという恐怖に取り付かれたからです。

私は3人兄弟の真ん中ですが、母が妹を連れて家から逃げ、私と兄が父の元に残されました。母はダバオで新しい恋人ができ、今は子どももいません。妹も母の所から高校に通っています。私と兄はMCLの奨学生になり、兄はキダパワンのMCLの寮から高校に通っています。

私は将来、大学で心理学を勉強し



て、教育関係の仕事に就きたいです。

母に置いて行かれて家族がばらばらになったことは辛かったけれど、この経験を通して私は強くなりました。将来の目標があって、勉強を続けられたから、自分の人生を受け入れられたのかもしれない。

公演では、マノボの踊りを観てほしいです。私の民族の踊りだから、特に頑張って練習しました。

私は、小さな頃から日本に憧れていました。カリナン出身の母の曾祖父のどちらかが日本人だと聴いていて、この夢が叶ってうれしいです。

**Norhaiya W. Pandian (女性)**  
19歳 マギンダナオ族



ノルハイヤ パンディアン

私はノルハイヤといいますが、色が白いので「ボテ(白)」というニックネームで呼ばれています。南ミンダナオ大学キダパワン校2回生で、

教育学部で勉強しています。7年前から奨学生で、高校1年生の時からMCLに住んでいます。出身はピキットのシリックで、イスラム教徒です。

私は7人兄弟の上から4番目です。父は、トウモロコシ畑で働いたり、プランギ川で魚を取っています。母は、身体が弱く痩せてしまったので、家で休んでいます。トウモロコシ畑の日給は100ペソちょっと(約250円)で、お魚が取れないとお米を買うことができないので、トウモロコシを買って食べます。

私は小さい子どもたちが好きなので、小学校の先生になるのが夢です。MCLでの生活は楽しいです。小さな弟、妹たちが「アテ(お姉さん)、アテ」と慕ってくれます。クリスマスチャンや少数民族の友達と過ごすのも楽しいです。一つの家族として、心地よく感じます。

日本でも、たくさん子どもたちに会って、一緒に遊んだり、おしゃべりしたいです。公演では、ムスリムの「マロンドンダンス」を観てほしいです。マロンという、大きな布を使って踊ります。日本の子どもたちが、私たちのダンスや歌を楽しんでくれたらうれしいです。

**Valentine H. Rarugal (男性)**  
18歳 イロカノ族



バレンティン ラルガル

僕は、バレンタインズデーに生まれたので、バレンティンと名付けられました。この4月に小学校を卒業して、マノンゴル高校に進学予定です。プロテスタントを信仰しています。出身は、マタラムのキビヤ村で、8人兄弟の6番目に生まれました。

僕の本当の父は、母が僕を妊娠中に、タンドゥアイ(ラム酒)の飲みすぎで、体を壊して亡くなったそうです。

母は再婚し、子どもが2人できたけど、再婚相手もお酒の飲みすぎで亡くなりました。母は心の病気になるってしまい、僕は10歳までルソン島の祖母に育てられ、その後ミンダナオの母の元に戻りました。

僕が奨学生になったのは小学2年生、13歳の時です。その頃、僕は



あまり学校に行かず、不良友達とフラフラしていました。ある日、友達とバイクを盗もうとしたら、警備員に見つかりました。友達は警備員に打ち殺されましたが、僕は福祉局に保護され、MCLを紹介されました。

その時からMCLに移り、5年目で、卒業することです。勉強は苦手ですが、ものを作るのが好きなので、大工か農業をしたいです。

日本に行ったら、自然を見たいです。飛行機や電車に乗るのも楽しみです。公演では、マノボの踊りと「ティニクリン」を特に観てほしいです。

僕は、ウォルタージョンという名前だけど、「ドドン」と呼ばれています。南ミンダナオ大学キダパワン校2回生で、自動車経営学を専攻しています。信仰はカトリックで、出身はダバオ・オリエンタルのマティという町の近くです。

父はマンゴーのプランテーションで働いていて、月収は7000ペソ（約2万円弱）です。僕は7人兄弟の上から2番目で、小さな弟妹がいるので、母は主婦をしています。僕がMCLの奨学生になったのは小学6年生の時で、その時からMCLに住



Walter John D. Mabasa (男性)  
18歳 マンダヤ族/ビサヤ族

僕たちのダンスを観て楽しんでもらえたら、僕も幸せです。そして、MCLのことを忘れないでいてくれたらいいな、と思います。

ウォルター ジョン



僕も歌に合わせてギターを弾くので、聴いて下さるとうれしいです。

僕は、ウォルタージョンという名前だけど、「ドドン」と呼ばれています。南ミンダナオ大学キダパワン校2回生で、自動車経営学を専攻しています。信仰はカトリックで、出身はダバオ・オリエンタルのマティという町の近くです。

父はマンゴーのプランテーションで働いていて、月収は7000ペソ（約2万円弱）です。僕は7人兄弟の上から2番目で、小さな弟妹がいるので、母は主婦をしています。僕がMCLの奨学生になったのは小学6年生の時で、その時からMCLに住

僕たちは、プロのギタリストになることです。小学校6年生の頃から、ギターを弾き始めました。でも、まずは大学を卒業して、トヨタの様な自動車を扱っている会社に就職して、ギタリストになる夢を追うつもりです。

日本に行ったら、色々な所を見てまわって、楽しい思い出をたくさん作りたいです。日本の学生たちと、学校や勉強について話してみたいです。公演で観てもらいたいのは、「ティニクリン」です。竹に足が挟まれそうでドキドキするけれど、踊るのが面白いです。ミンダナオの様々な民族の踊りをぜひ観に来て下さいね。

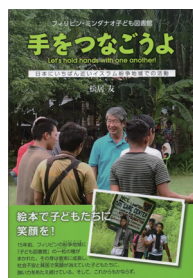
僕たちは、プロのギタリストになることです。小学校6年生の頃から、ギターを弾き始めました。でも、まずは大学を卒業して、トヨタの様な自動車を扱っている会社に就職して、ギタリストになる夢を追うつもりです。

日本に行ったら、色々な所を見てまわって、楽しい思い出をたくさん作りたいです。日本の学生たちと、学校や勉強について話してみたいです。公演で観てもらいたいのは、「ティニクリン」です。竹に足が挟まれそうでドキドキするけれど、踊るのが面白いです。ミンダナオの様々な民族の踊りをぜひ観に来て下さいね。

本を買って下さるのも、寄付支援の一つになりますよ！



「サンパギータのくびかざり」  
今人舎 定価 1600円



「手をつなごうよ」  
彩流社 定価 1800円



「わたしの絵本体験」



「昔話とこころの自立」  
教文館 定価 1400円



「昔話の死と誕生」

これらに関わらず、松居友の著作の著者印税は、全額をミンダナオ子ども図書館に寄付しています。寄付と言うよりも、MCLの子どもたちと私たちは、皆で一つの家族だから！

支援者の皆さんも家族です。セカンドハウスのつもりで、いつでも訪ねていらしてくださいね。ダバオ国際空港に着く時間を、メールで宮木梓さんに教えていただければ、お迎えにあがります。特別な接待はしませんが、宿泊料もとりません。食事も子どもたちと一緒に。なぜなら理由は、子どもたちといっしょに、家族として皆さんを、友情と愛で迎えたいから!!!

## たくさんの子どもたち

(連載エッセイ) 松居友

壮大な風景を目の前にしながら、粘土質の急な斜面を車で下っていくと、キアタウの村が見えてきた。

竹の壁に、屋根はニッパ椰子か、良くてトタンをふいたシンプルなお小室だ。開けっぴろげの窓や入り口からは、子どもたちが顔を出し、丘の上の方から降りてくる。二台の車を見つめている。

車が村に近づいて来て、それがミンダナオ子ども図書館の車だとわかると、子どもたちは、手をふりながら家から飛びだしてきた。荷台からは、ブラジルの双子の兄弟が、同乗しているキアタウ村の奨学生たちといっしょに、大喜びで手をふりかえしている。村に入ると、どこからこんなにたくさん子どもたちが来たのだろう、と思うほど、多くの子どもたちが車を目指してかけよってきた。

「そんなに家があるとは思えないのに、何でこんなにたくさん子どもがいるの？」シエアハウスの娘さんは、驚いて言った。

「一家族に平均して7人ぐらいは、子どもがいるから・・・」そう答えると、娘さんは、絶句したあとと言った。

「これじゃあ、子どもを学校に行かせたり、食べさせるだけでも大変ね！」

「確かにそう。だから、産児制限をすれば良いのに、という人もいるけれど・・・でも、大自然が豊かなように、子どももたくさんいる方が、幸せだと思っているみたい。」

「子どもは天からの恵みっていう、感覚なのね。」

「でも、確かに貧しくって、なかなか全員を学校に行かせることはできない家族が多いね。この近くののちと貧しい村では、子どもたちは全員、小学校の一年生に登録されるのだけれど、2年生になると、70パーセントがストップしてしまう。」

「何故なの？」

「2年生になると、午後の授業が出てきて、お弁当なんか持って行けないからね。特に女の子なんかは、食べ盛りの13、4歳になると結婚させられていく。」

ところがあるとき、マニラから政府の福祉局の職員が来て、「親のいる子は、親元に帰すのが本来の福祉のあり方だ」という講演をして帰っていった。

確かに、ミンダナオ子ども図書館でも、親元から通える子は、できるだけ自分の村に住んで通うようにしているのだが、なかには親がいても、極貧の

子や、学校が遠い子の場合、本部や下宿小屋に住まないと学業を続けられない。

そういう子たちは、本人の希望と保護者の理解があれば、本部や下宿小屋に住めるようにしていた。村にもどりたくなれば、翌年になって、いつでももどれるので、孤児院とは異なっていて、門が開いていても、逃げ出す子もほとんどいない。

ところが、マニラから来た福祉局の職員が講演で「親のいる子は、親元に帰すのが本来の福祉のあり方だ」と言ったものだから、ソーシャルワーカーたちも当惑して、本部や下宿小屋にいる、両親がそろっている子たちを、無理やり家に帰した。

すると、その子たちのほとんどが、半年もたたずに学校をストップして、家政婦や食堂の皿洗いなどの仕事を探しに町に出ていった。

そして、その中の一人が、ある日突然、ミンダナオ子ども図書館に駆けこんできて言った。

「もうわたし、どうしたら良いのかわからない。家政婦の仕事をしたら、雇い主からセクシャルな嫌がらせをされたの。」

でも、家に帰っても、貧しくって、みんな3食もたべられないのに、親が

良いって言ってきても、わたしだけが、学校になんて行かれないわ。わたしといっしょに、村にもどった子たちも、食べ盛りだから、13歳で、無理やり結婚させられた子もいるし。

それで、わたしは決心して、学校をやめて、町に出ただけけれど、嫌な目にあたり泣いて泣いている。わたしも、もう絶対に職場にも帰れないし、家にも帰りたくない！」

といって、ワッと泣き出した。

それで、親とも話し合い、いったん外に出した子たちを、再び本部や下宿小屋にもどすことにした。子どもたちも親たちも大喜びした。

そのことを、地元の町の福祉局の職員に話すと、マニラの福祉局とは異なっていて、地元の福祉局の職員たちは、現状がよく理解できるのでこうおっしゃった。

「だいじょうぶ、ミンダナオ子ども図書館は、本当に子どもたちを救っていますし、本部が何を言おうとも、見えて見ぬふりをしていきますから・・・。」

2017年に、ミンダナオ子ども図書館は、北コタバト州の認定から、フィリピン政府直轄の認定特別非営利法人になったけれど、今では、マニラから調査に来た職員も、ちゃんと理解し認めてくれている。

ゆうちょ振り込み口座 00100-0-18057 : 加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

7

(インターネットバンキングも可能です) ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900  
■店番 019 ■預金種目 当座 ■店名 O一九店(ゼロイチキユウ店) ■口座番号 0018057

## わたしの少女時代の

### 思い出から(6)

松居 エープリルリン

一日で、いちばん待ちに待った時間がきた。クラスメートの一人が叫んだ。

「さあ、わたしたちの大好きな、あの場所に行こうよ!」

「行こう!」

「行こうよ!」

「行こう、行こう!」

みんな教室から駆け出すと、食堂に向かった。そこには、学校のなかに小さなカフェテリアがあるの。

わたしもいっしょに駆け出したけれど、わたしは、食べものを買うお金が無いから見物だけ。

でも、ふだんは、教室にすわって、授業が始まる前まで、宿題をするの。食堂では、みんな座りこんで、サン



ドイチや地元のおいしいおやつを食べながら、楽しくおしゃべりしているのよ。地元のおやつは、甘焼きバナナ、お団子、カサパイモのケーキなど。

そして飲み物は、コココーラ、スプライトやジュースがあるわ。

食堂の入り口には、チラシがはってあって、こう書いてあるの。

「かならず最初に来た人から、順番に並ぶこと!」

だから、何か食べたいものを買いたい人は、いち列に並ばなければならぬ。でも、生徒のなかには、並ばないで駆けこんでくる子もいるわ。特に、男の子たち。

「ビバリー!ビバリー!」

ジョンサンが、名前を呼んだ。

ビバリーは、前に並んでいたけれど、自分の名が呼ばれるのを耳にしてふり向いて、誰が自分を呼んだのかを見届けようとしたわ。

「なあに?ジョンサン!」

ビバリーは応えた。

「頼みたいことがあるの!」

わたしのために、マンゴーのジュースを一缶と、カサバケーキを買ってくれない?お願い!」

ジョンサンは、そう言うと、ビバリーに駆けよって、お金を彼女の手のひらにわたした。

「ビバリーはうなずくと、言われるままに、ジョンサンのお金をにぎりしめた。」

先生の何人かは、家で作ったアイスキャンデーや氷菓子を持ってきて、また生徒も、家で煎ったピーナッツ持ってきたり、ときにはピーナッツバターやキャラメルを作って持ってきて、休み時間に売っている。

わたしも、することが無いときには、先生が家で作って持ってきたお菓子を売るのを手伝った。そうすると、先生は、わたしにアイスキャンデーや氷菓子を食べさせてくれたし、ときには、学校のプロジェクトや授業で使う用紙代を払ってくれたの。

ベルが鳴った。

教室にもどらなくっちゃ。つぎは算数で、足し算と引き算の問題を解く授業。私にとって大好きな科目だから、授業に集中して、問題を解いたり計算をしたりするのよ。

クラスメートの何人かは、算数の授業中に居眠りしていた。だから、試験になっても答えが解らないのよね。

そして授業が終わりに近づくと、先生は、生徒たちに課題をだした。

「つぎの単元に入る前に、今のところをちゃんと理解することが大切ね。だからそのためにも、この宿題をやっ

ておきなさい。」

クラスメートの何人かは、席に座ったままぶつぶつと文句をいった。算数は難しくって、どうしたら良いか解らなかつたから。

「みなさん、さようなら」と、先生はいった。

「先生、さようなら」わたしたちは応えた。

先生が、教室からでると、クラスメートたちは、さつき先生が出した課題について話し合った。

「エープリルリン、先生の説明、わかつた?」アレクシスが聞いた。

彼は、教室で一番のついで、のんびりやの楽道家だ。でも宿題やプロジェクトが嫌いで、ときどき落第点をとったけれど、それでも気にしない子だった。

「たぶん、わかつたと思うわ」と、わたしは答えた。

お昼時間の30分前に、午前中の授業は終了した。さあ、早くお家に帰って、お昼ごはんの用意をしなくっちゃ。叔母さんと叔父さんが、畑から帰ってくるし、3人の従姉妹たちも、お弁当を持って学校に行っていないから、家に食べに帰ってくるし。

わたしは家に帰ると、といだお米を火にかけて、豚の所に行つてエサを与

ミンダナオ子ども図書館についての情報、2006年からの日々の活動報告など詳しくはウェブサイトのホームページを参照されると、より深くわかります。

検索:「ミンダナオ子ども図書館だより」

<http://www.edit.ne.jp/~mindanao/mindanews.htm>  
フェイスブック: 松居友 or ミンダナオ子ども図書館



え、山羊には、少しお塩をとかした、水をあげた。

豚と山羊にエサをやり終えて、ごはんを炊いている場所にもどって来ると、学校から帰ってきた従姉妹たちに、作ったお昼を出して、いっしょに食べた。

その後、わたしは、学校に駆けもどった。

1時5分前には、教室に戻っていないくちやいけないのに、でも、いつも10分ほど遅れてしまう。なぜって、学校まで15分から20分ほど、歩かなくてはならないから。

でも、いつも遅れてしまっても、先生たちは、わたしの立場を良く理解してくれていたわ。

先生は、「明日からは特別な授業の日で、学校の創立記念日の準備をします。ですから、一週間のあいだ、お昼は家に帰らずに、お弁当を持ってくるようにしなさい」といった。



校長先生は、父母宛に手紙も書いた。

このイベントの間、たくさんのおスポーツ競技が開催され、学校の催し物が行われるの。でもわたしは、家に帰ってお昼の準備をしなければならぬから、お弁当を持ってこられなかったし、スポーツも催し物にも参加できなかったの。

クラスメートたちは、とっても興奮して、どのスポーツと、どのイベントに参加しようかと話し合っていたわ。

私たちの住んでいるところは海に近く、「埋め立て地」とも呼ばれていて、高潮になると、泥だらけになるので、通り道には、サックに石と土をつめたものが置かれて固めてあった。

海に向かっている道や小道の近くには、たくさんマングローブが植わっていてね、小さな穴が空いていて、小蟹や小魚が、マングローブの根元に隠れていたりするのよ。わたしたちの家の床下にさえ、小蟹が穴から穴へ駆け抜けたり、ときには家の食器棚に入っていたりしていたわ。

その日の午後、わたしは一人で、古い錆びた橋をわたってから、狭くつきゆうくつな脇道に入っていた。

人々のうわさでは、このあたりは一人で歩いちゃ駄目、とのことだった。

「特に錆びた橋の近くは、急いで通り過ぎなさい。ときどき、物騒なことが起こっているからね。仕事が無くて、ギャングのような若者たちの、たまり場になっているから、とっても危ない場所だよ。」

あるとき真つ暗闇の中で、若い少女が襲われてレイプされて、亡くなったという話も聞かされていた。電灯はあつたけれども、古くて道を照らすほどは、明るくはないの。

でもわたしは、みんながそんな話をしていても、今までそこを通るのを、怖いと思つた事はなかったわ

ときには、人が立っていて、話したり笑ったりしているけれど、笑いかけたり通り過ぎたし、人々もわたしを見て微笑んでくれたわ。わたしが、鬼口であつたにもかかわらず。

わたしはいつでも、どこでもお祈りして、神様を信じていた。でも、その日の帰り道に、橋を渡って、すぐに細い横道に向かったら、後ろから、誰かが、わたしの名を呼ぶ声が聞こえた。

「エープリルリン、エープリルリン！」

だれかが、わたしを呼び止めている。心臓がどきどきして、髪の毛が逆

立ったわ。怖くて心配になったけれども、怖さに負けまいとして、一瞬立ち

止まって、ふり向くと、遠くからわたしを見て手をふっている、数人の人たちが見えたの。

「エープリルリン！なぜ、一人なんだけ？友達はいないのかい？」

その中の一人がたずねた。汚れたズボンをはいて、灰色のシャツを着て、色の違った外履きを履いている。

「わたし、みんなよりも、先に帰ってきたの。だって、みんなスポーツやイベントの準備で、いそがしいんだもん」と、わたしは応えた。

「そうかい、気をつけて帰りなよ。」

「ありがとう！」

わたしは、笑顔で応えた。

「みんなは、午後に、いっしょに学校から帰るけれど、わたしは先に帰って、家族の夕食の支度をしなくっちゃならないのよ。」



「そうい  
うとわた  
しは、彼  
らに手を  
ふって、  
わきの細  
道を帰っ  
ていっ  
た。」

**ミンダナオ子ども図書館のスカラシップは、成績よりも孤児や片親、母子家庭の子、親がいても学校にいけない子を採用基準とし、大学まで通えます。その中の特に何らかの事情で保護を必要としている子は本部に住み、生活を保障。学費の他に、医療費、制服、学用品、小遣い、寮下宿代、生活費等が入っています。**

# この子たちの支援者になっていただけませんか！

**Abo P. Dilna (アボ ティルナ) 18歳 マギンダナオ族 シリック高校4年生(6年制)**

私はアボという名前です。ピキットのプアラン村ニューバレンシアのイスラム集落に住んでいます。4人兄弟の2番目で、姉と妹、弟がいます。姉もMCLの奨学生でしたが、高校3年生で学校を止めて結婚し、家を出ました。妹も奨学生で、MCLから高校に通っています。私たちの村は高校が遠く、徒歩で2時間かかります。

私が妹の様にMCLに移らない理由は、父が長い闘病の末、2015年2月に亡くなったからです。弟はまだ11歳なので、私が母親を助けなければなりません。母親は、山で自給用にトウモロコシを育てており、私も一緒に働きます。現金が必要なときはトウモロコシを売りますが、1キロ10ペソにしかなりません。お米は1キロ45ペソで買います。ご飯は一日2食、昼ごはんは夜ご飯しか食べません。お米が買えない時やトウモロコシがない時は、バナナやキャッサバ芋を食べます。何もなければ、食べられません。おかずは、空芯菜やサツマイモの葉っぱ、ブラッド(小さい魚の干物)です。

MCLの高校生のお小遣いは月に200ペソですが、宿題のための学用品を買うのに足りないで、土曜日はよその人の畑でトウモロコシを植えたり、草刈りをします。1日働くと、150ペソになります。平日も仕事があると、ときどき学校を休んで働きます。母親も山で働いているので、私も家事をします。料理も得意で、妹は私の作る空芯菜のスープが一番おいしいと言ってくれます。

妹とは年子だから、けんかばかりしているし、仲良くするのも照れくさいけれど、離れて暮らして寂しく思います。新年や夏休みに戻ってくるのが楽しみです。勉強は好きです。できれば大学で勉強して、高校のタガログ語の先生になりたいです。趣味はバスケットボールです。私の人生で大切なものは、家族と信仰です。毎週金曜日にモスクに行ってお祈りします。

厳しい生活ですが、勉強をあきらめず夢を叶えたいです。



**Barbie Joy D. Bascon (バービー バスコン) 13歳 セブアノ族 / タガバワ族  
マノングル高校1年生(6年制)**

こんにちは！私の名前は、バービー。7歳の頃からMCLに住んでいます。MCLに来る前は、マグペットのテンポランというところに、ママと、ママの再婚相手と、お兄ちゃんと弟と住んでいました。私は7人兄弟の6番目だけど、上の4人の兄と姉のことはほとんど知らないの。マニラや海外で働いているみたい。本当のお父さんは、顔も知らない。ママとどうして別れたのかも知らない。私が小学1年生になるときに、ママが「これからはMCLから学校に通うのよ」と言って、お兄ちゃんと一緒にここに連れてこられたの。

お兄ちゃんは、最初の2年はMCLに住んでたけど、テンポランに帰って高校の先生のところに住んで通学してる。お兄ちゃんも、まだMCLの奨学生だよ。私がMCLの奨学生になったのは、ママは、子どもが7人もいたから私たちを学校に行かせたくなかったけど、私はママと離れても勉強がしたかったからなの。ママと離れて、最初は少し怖かったよ。でも、さみしくなかった。ママは今、再婚相手のところに住んでいて、弟はトゥンガオの親戚に預けられてる。

私は、ママが好きだけど、ママの再婚相手が嫌いだからママのところには行きたくない。夏休みも、クリスマスも、1日でも2日でもママのところに行きたくない。MCLに残っていたい。再婚相手は、悪い人じゃないよ。でも、私は好きじゃないの。去年の5月に、弟の誕生日を祝うために、ママが弟を連れて、私とお兄ちゃんに会いに来てくれたんだよね。でも、再婚相手も一緒に来たから、全然うれしくなかった。ママだけだよ、ハッピーだったの。

私、お兄ちゃんともあんまり仲良くないんだよね。私の態度が悪いって怒られて、けんかになっちゃう。でも、いとこのラブリーがMCLにいるの。ラブリーはお母さんの妹の娘なんだけど、お父さんと別れて、お母さんもいなくなっちゃったんだ。だから、私のママがラブリーのママもしていて、私たちは本当の姉妹のように仲良しなの。クリスマスも誕生日も、MCLで一緒に。相談事も、ラブリーにする。

私の家族はバラバラになってしまったけれど、いつかマニラにいるお姉さんには会いたいな…。私の夢は、マニラのコールセンター・エージェンシーで働くことなの。英語が好きだから、英語を使った仕事がしたいんだ。そしたら、お姉さんに会えるかもしれない。

私は、結婚はしたくない。自分の仕事を持って、一人でマニラに住むの。そして、スマートフォンを買って、お姉さんや友達に電話するの。でも、女の人となら一緒に住んでもいいかな。子どももいらないよ。養子は欲しいって思うかもしれないけど。だから、がんばって勉強して、4年制の大学を卒業したい。今年、小学校を卒業して、高校に行けるのが本当にうれしいの。学校に行けない子がたくさんいる中で、私は夢を叶えるチャンスを与えられて、幸せだなんて思うよ。



上の子たち以外にも、いまだに140名ほどの子たちに、支援者が居ません。

サイト「ミンダナオ子ども図書館だより」から「まだ支援者のいない子たちへ」をクリック

パスワード：mindnaoで、紹介されています。ご覧ください。

奨学生の紹介、質問、現地訪問、その他に関するお問い合わせは、

メール： [mcimindanao@gmail.com](mailto:mcimindanao@gmail.com) 現地日本人スタッフ 宮木梓(あずさ)

FAX： 0743 74 6465 日本事務局 前田容子

**Marivic L. Dacay (マリビク ダカイ) 17歳 ビサヤ族 / マノボ族  
マノゴル高校1年生 (6年制)**

私は、マリビク。アラカンの山あいの村、キアタオが私の故郷です。私は17歳だけど、この4月で、やっと小学校を卒業します。MCLの奨学生になったのは小学1年生の時、小学3年生の時からMCLに住んでいます。

私のお母さんは、結婚しないで私を産み、産んでから5日後にはカリナンでハウスメイドをするために戻りました。私は、ずっと祖母に育てられていて、8歳くらいまで祖母を本当のお母さんだと思っていました。お母さんはその間、一度もキアタオに帰って来ませんでした。お母さんが家に帰って来たのは、エイズで死ぬ直前です。その時に、初めてお母さんを知りました。でも、急に本当のお母さんだと言われても、あんまり仲良くできませんでした。お母さんが家にいたのは、たった1週間だったし、病気が移るからって、一緒に寝ることも、抱きしめてもらうこともできなかったからです。その代わりに、肩をそっと抱いて、お洋服や下着を買ってくれました。

お母さんは、キアタオからカリナンに戻って1週間後に亡くなりました。お葬式は、祖母と一緒に、泣きました。お母さんは、とってもきれいで、カリナンにたくさん恋人がいたので、エイズになってしまったそうです。お母さんの写真を持っていたけれど、無くなっちゃった。写真の中のお母さんはすごくセクシーなポーズだったよ、フフ。お母さんとの思い出はそれだけだけど、私の名前は、きっとお母さんが付けてくれたんでしょうね。

私は両親に育てられなかったし、兄弟もいないけれど、キアタオにはいとこたちや叔父や叔母がたくさんいて、家族の様に過ごしてきたから、寂しくありませんでした。でも、小さいころに養子に出されたのが、すこしつらかったかな。祖母は貧しくて、ミルクを買えなかったんです。でも、おもゆで育てられたのに、今の私は体格がいいからラッキーですね。

7歳の頃には、子どもが男の子ばかりで女の子が生まれぬお家にもらわれたけど、女の子が生まれたとたんに家を出されました。その他にも、いろんな家にもらわれては出されて、結局、祖母のところに戻りました。今はMCLに住んでいるけど、夏休みにキアタオに帰るのが楽しみです。MCLではお腹いっぱい食べられるし、友達もたくさんいて楽しいけれど、キアタオが好きです。キアタオでは、トウモロコシ畑で働きます。祖母は70歳を超えても元気だけど、家にいるときは私も働かなきゃ、食べ物がありません。

MCLでは、踊ったり、歌ったり、バレーボールをしたり、みんなで賑やかに過ごすのが好きです。好きな色は、ピンクと黄色と、赤。私の夢は、4年制の大学に行って、小学校の先生になることです。学校の成績は良く、平均が90点以上あります。第2回目の中間テストでは科学が94点でした。数学は少し苦手です。高校に進学したら勉強が難しくなると高校生の友達は言うけれど、大学に行けるように頑張りたいです。



**Charlie M. Sumin (チャーリー スミン) 20歳 マノボ族 マノゴル高校5年生 (6年制)**

僕の名前はチャーリーだけど、仲のいい、特にマノボ族の友達からは「オイエ」というニックネームで呼ばれています。最近、ムスリムやビサヤの男の子たちにも、「コヤ(お兄さん)・オイエ」と呼ばれます。僕がMCLの奨学生になったのは、小学2年生のときで13歳でした。僕は8人兄弟の6番目で、7番目の妹も奨学生になってMCLに住んでいます。

僕の家族は、もともとキアタオに住んでいましたが、僕が4歳のときに家族みんなでキダパワン市のダイヤモンドというところに移住しました。キアタオで父は、トウモロコシやキャッサバ芋を植えたり、トウモロコシを挽く木臼を作っていましたが、子どもが多く生活が厳しいので、仕事を探して町に出ました。ダイヤモンドで父は大工をしていました。兄も、高校を止めて父と一緒に働いていました。

僕はキアタオが恋しかったけれど、ダイヤモンドの暮らしはキアタオよりも良く、3食お米を食べることができました。しかし、キダパワンに移って2年が過ぎた頃、まず3番目の姉が病気で亡くなりました。それから、父が胃潰瘍で亡くなりました。その1年後くらいに、母も同じ病気で死にました。両親を失って、僕たちは学校に行けなくなりました。学校に行かなくなって2年ほど経ったころ、兄がMCLのことを知って、奨学生に申し込んでくれました。その時に、姉、僕、妹、弟が奨学生になることができ、家には十分に食べられるだけの収入がなかったため、4人でMCLに移りました。でも、姉は結婚し、弟は仕事を選んだため、勉強を続けているのは僕と妹の2人だけです。

僕の夢は、医師になることでした。両親と妹が病院に行けずに亡くなったから、医者になって病気の貧しい人を救いたいと思っていました。でも、勉強が苦手なので、今の夢は、高校を卒業して就職することです。高校5年生の選択クラスでは、溶接をしたいと思っています。高卒後、進学するとすれば、自動車関係の職業訓練校に行きたいです。

僕は、夏休みを親戚のいるキアタオで過ごそうと思っています。4歳までしかいなかったけど、アラカンの山々や、そこにいる人たちが好きです。でも、仕事を探さならダバオに出ようと思っています。ダバオにはたくさん仕事があるからです。結婚は、生活が落ち着いてから、30歳くらいでしたいです。

僕の好きな食べ物、カエルのしょう油煮で、キダパワンに移ってから時々カエルを捕まえて食べていました。MCLでも、マノボデーのときに食べることがあります。キアタオに戻ったら、カエルを食べたいです。僕の人生で大切なものは、一つ目が本当の家族、二つ目がMCLの家族、そして三つ目が学校を卒業することです。自分にとって勉強するのはしんどいけれど、なんとか高校を卒業し、いい仕事を見つけて家族を助けられるようになりたいです。



**小学生(里子):年間4万円、高校生:6万円、大学生:7万円です。**

**極貧のなかでも、孤児や崩壊家庭の子で、イスラム、クリスチャン、先住民を均等に採用しています。**

**支援者の方が、訪問された場合、奨学生に会いに家までお連れします。**

**ほとんどの子どもたちが大喜びで、時には抱きついて泣き出します。**

**MCLに滞在してください。家族ですので、空港までお迎えに上がり、宿泊費はとりません。**

# Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない  
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも  
はるかに美しいと感じるときだってある。  
けれども、どうにもならないのが、たべられないときと、  
お金が無くて学校に行けないとき、病気になるでも治せないとき・・・



## ミンダナオ子ども図書館支援方法

- 1、医療や読み聞かせ等の活動全般にかかる経費と子供たちの生活費を支援・・・自由寄付**  
直接下記の振替口座をお願いします。寄付をくださった方には隔月に機関誌『ミンダナオの風』と年一回、英語の絵本をお送りしています。  
**自由寄付は、一番根幹になる寄付です。貧困集落に住んでいる子供たちの薬から手術に至るまでの医療費。まだ支援者が見つからないにも関わらず放っておけず採用している140名ほどの奨学生達の学費。保護を必要として、MCL本部や下宿小屋に住み込んで学校に行かせている200名ほどの奨学生の生活費。ガソリン代を含む活動全般の諸経費等々に充てています。**  
機関誌を楽しみにしている方の場合、わずかな寄付でもお送りします。  
他の方々に紹介していただければ幸いです。不要の方は、ご一報ください。
- 2、植林環境支援・・・6万円（ゴム、カカオの木600本、1ヘクタール、現地作業代）**  
洪水対策と先住民が土地を手放さないようにするための、経済自立支援です。
- 3、保育所・下宿小屋建設支援・・・90万円（簡易保育所は止め、スタンダードにしました）**  
総コンクリート製をご希望の方は、130万円で可能です。  
開所式の参加や訪問も可能です。毎年チェックし、必要な場合は、修理をしていきます。

### スカラシップ支援

ミンダナオ子ども図書館のスカラシップは、成績よりも孤児や片親、母子家庭や崩壊家庭の子、親がいても兄弟が多く学校にいけない子を採用の基準とし大学まで通えます。その中の特に何らかの事情で保護を必要としている子は、本部に住み生活を保障（現在80名）。支援には学費の他に、医療費、制服、学用品、小遣い、下宿代、生活費等が入っています。

- 1、大学生スカラシップ・・・年額70000円（月額5833円）**  
（大学は、この価格では不可能ですが、自由寄付を不足分に満てています。）
- 2、高校生スカラシップ支援の方へ・・・年額60000円（月額5000円）**
- 3、里子支援（小学生）・・・年額40000円（月額3333円）**

スカラシップの場合は、振り込み用紙の通信欄に「大学」または「高校」（フィリピンに中学はありません）と書いて振り込んでいただければ、現地スタッフの宮木梓よりお便りします。その後、機関誌に同封して本人からの手紙（英語）、6月にスナップ写真、8月に成績表、12月にはカードが届きます。プレゼントや文通も可能です。日本語の手紙は、現地で翻訳して渡します。小学生の里子の場合は、手紙はありません。プレゼントは可能ですが、文通は出来ません。

事前の紹介や希望、訪問などのご相談は、メールで現地スタッフの宮木梓（あずさ）さんか、FAXで日本事務局の前田容子さんに！訪問の際は、ダバオ空港にお迎えに行き、MCLに宿泊していただき自宅にもご案内します。米は自給していますし宿泊費はとりません。

**奨学生の紹介、質問、現地訪問、機関誌停止その他に関するお問い合わせは、**  
**メール： [mcimindanao@gmail.com](mailto:mcimindanao@gmail.com) 現地日本人スタッフ 宮木梓（あずさ）**  
**FAX： 0743 74 6465 日本事務局 前田容子**

詳しくはウェブサイト参照「検索：ミンダナオ子ども図書館だより」  
<http://www.edit.ne.jp/~mindanao/mindanews.htm>

**ゆうちょ振り込み口座 00100-0-18057：加入者名『ミンダナオ子ども図書館』**

（インターネットバンキングも可能です） ■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900  
■店番 019 ■預金種目 当座 ■店名 ○一九店（ゼロイチキユウ店） ■口座番号 0018057

講演会、報告会、家庭集會に、松居友が講演料、謝礼に関係なくうかがいます。  
サイト『ミンダナオ子ども図書館だより』から年間のスケジュールをクリックすれば、空き日が確認できます。  
メールや電話でもお申し込みください。講演を企画してくださるのも、大きな支援です。 12  
メール：[mcitomo@yahoo.co.jp](mailto:mcitomo@yahoo.co.jp) 電話番号：080-4423-2998（日本および現地転送・松居友）